

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

# 思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



〈南摩ダム完成予想図〉

## 南摩ダムクリーンアップ作戦 ～貯水池内をキレイにしよう！～

思川開発建設所は、南摩ダム建設に必要な貯水池等事業用地の補償契約を進め、現在、約328ha(全体の約87%)を取得し、事業促進に向け業務を遂行しております。

この南摩ダムは、ロックフィルタイプのダムで、総貯水容量が51,000千m<sup>3</sup>もあります。これは東京ドームの約41杯分にも相当する水を貯留できることとなります。

これだけ大きなダムになりますので、当建設所では、良質で安全な水を確保するため、日頃より、貯水池内での不法投棄の防止に取り組むとともに、投棄されたゴミについても、適宜回収し、処分しています。

そこで、平成18年6月6日、南摩ダムクリーンアップ作戦と題して、当建設所の職員により貯水池内の不法投棄の特にひどい箇所为重点的にゴミの回収作業を実施しました。



↑ 冷蔵庫やベッドなど大型ゴミも多く、回収に苦労しました。

貯水池内の数カ所に分かれて作業を行いました。タイヤや家電製品のほか、タンスやベッド等一人では運べない大型ゴミもたくさんありました。

作戦の当日は、かなりの量を回収しましたが、完全には回収できなかった場所もあり、秋には2回目の作戦を実施する予定にしています。

なお、回収したゴミは、鹿沼市のご協力をいただいて、クリーンセンターに持ち込み、処理して頂いています。



↑ 古タイヤなど多く見つかりました。



こんなにたくさんのゴミ！  
不法投棄は絶対ダメよ





南摩ダム水源地域整備計画の  
一環として南摩学童保育館が完成！

平成18年6月30日、鹿沼市南摩地区（南摩小、上南摩小）の児童達が利用する南摩学童保育館がオープンしました。これは、鹿沼市が南摩ダム水源地域整備計画の一環として、南摩小学校の南側にあった旧駐在所を栃木県から購入して、改築し、設置されたものです。

この施設は、放課後に共働きなどで保護者が家庭にいない児童を対象に、遊びや学習の場を提供するもので、当建設所も旧梶又小学校の図書室にあった本や図鑑、保健室のベッドなどを寄贈しました。

なお、開所式の模様は7月3日の下野新聞にも掲載されました。



↑ 玄関前で元気いっぱいの児童達

↓ 当建設所が寄贈した本も大人気です。



## 水の週間記念行事のご案内

毎年8月1日は、「水の日」です。水資源の有効性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、昭和52年5月31日閣議了解により制定されました。

また、この「水の日」を初日とする1週間を「水の週間」として各地で水に関する啓発活動が行われています。

栃木県でも8月7日（月）に「水の週間」の行事の一環として、中学生水の作文コンクール表彰式（13時より）やダニエル・カール氏の講演会（14時より）が栃木県総合文化センターにて開催されます。併せて、当機構のパネル展示等も行いますので、是非、一度足を運んでみてください。

栃木県「水の週間」行事の問い合わせ先  
： 栃木県企画部水資源対策室 (tel 028-623-2567)



### 「水の週間」主なイベント

- (1) ウォーターフェア'06 東京  
日時：平成18年7月28日～8月1日  
場所：科学技術館（東京都千代田区）
- (2) 第26回ウォーターフェア 隅田川レガッタ  
日時：平成18年8月6日11時より  
場所：隅田川桜橋上流～吾妻橋



## 弁財天（南摩川の水源）が生まれ変わりました。

弁財天（南摩川の水源）が地元有志の皆様による作業で生まれ変わりましたので、ご紹介します。

弁財天とは南摩川の水源で、いつも新鮮な水が湧き出ており、この水でコーヒーやお茶を淹れると非常においしいと評判です。

以前は足場や囲いもなく、水を汲むのも非常に大変でしたが、囲いを作り、水を貯めることで汲みやすくなりました。

また、道路から水汲み場までの急斜面には、階段を作って歩きやすくしたり、囲いの中に斜面の土や落ち葉等が流れ込まないように、丸太を斜面に沿って並べたりと工夫をこらしたものとなりました。微力ながら、機構職員も作業の一部をお手伝いさせていただきました。

南摩川の水源である弁財天の水に感謝するとともに、いつまでも現在のきれいな状態のまま、利用していきたいものです。

最後になりましたが、作業に携わっていただいた岩本均様、青木圭一様をはじめ地元有志の皆様、本当にありがとうございました。



↑ 修復後の弁財天（南摩川水源）  
足場も整備され、水が汲みやすくなりました。

## ホタルの季節

平成18年6月16日、鹿沼市の「出会いの森総合公園」でホタルの鑑賞会が催されました。公園は、思川開発事業で取水・放流工を建設する大芦川と大芦川導水路が通過する荒井川が合流する鹿沼市酒野谷にあり、休日ともなれば、県内のみならず東京や埼玉からもキャンプやバーベキュー等で大勢の利用者が訪れるところです。

鑑賞会では、映画やテレビで見るとようなホタルが乱舞する光景には出会えませんでした。朝からの雨が上がり、数多くのホタルを見ることができました。

ところで、思川開発事業では、南摩ダムの建設に伴い移転をして頂く方々のために集団移転地を造成しましたが、この集団移転地の近くでもホタルを見ることができます。そこは、小さな沢沿いに広がる水田で、地元の方々には知られているホタルの名所だそうです。人家の明かりに背を向けて、漆黒の水田を見渡していると、ホタルが1つまた1つと光りだし、ホタルが乱舞する光景とはまた違った懐かしい風景を目にすることができました。

ここでご紹介したところは、積極的な自然の保全活動の結果ではなく、あくまで人々の営みと自然との調和が保たれた結果として、ホタルが舞う環境が残されているのどと感じました。そして、思川開発事業の実施にあたって、このようなホタルが舞う環境を残していけるよう取り組んで参ります。





# こんにちは！ の 南摩仲間たち



### 【参考文献】

- ・鹿沼市史叢書8 鹿沼の自然 動植物相等調査 (鹿沼市史編さん委員会編集)
- ・2005レッドデータブックとちぎ (栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編集)

### その⑤

ギバチ (ナマズ目ギギ科)

*Pseudobagrus tokiensis*

大抵の魚は人間と同じように昼間活動しますが、ウナギやナマズといった夜行性の魚も存在します。

今回は、夜行性の魚の一つであるギバチを紹介しましょう。

ギバチは神奈川県、富山県以北の本州に分布している体長12～25cmくらいになる日本の固有種で、ユニークな名前の魚ですが、生息場所(水のきれいな砂礫質の河川の上流域から中流域)の消滅等により、その数は減少傾向にあるといわれています。

胸びれと背びれにはトゲがあり、毒素を持っているため刺されると非常に強い痛みを感じます。その胸びれのトゲと付け根の骨をこすりあわせて”ギーギー”という音を出すことから「ギギ」と呼ばれることになったそうです。

鹿沼市付近では「ギンギョ」と呼ばれており、一見ナマズに似ていますが、色が黄色っぽく、やや細身で上顎と下顎に各2対8本のヒゲがあること(ナマズは4本)とナマズほど大きくならない(ナマズは体長60cmほどになる)ことで区別出来るようです。

ギバチは、ウナギやナマズと同じように魚食性が強く、昼間は石の陰などに隠れていて、夜になると動き回り、動きが緩慢になっている小型水生生物や底生生物を食べているようです。

## 人事異動

七月一日付で異動のありました職員を紹介します。

◆ 所内異動 ◆  
調整課 菅 俊久仁 (第一用地課)



## 編集後記

毎年、梅雨が明けると暑さも一段と厳しくなり、水が恋しくなる季節を迎えます。

水の大切さ、ありがたさを改めて考えたいですね。

編集・発行所



独立行政法人 水資源機構

思川開発建設所

〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368

Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945

ホームページ <http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>

鹿沼事務所

〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18

Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890